

博士論文の内容の要旨

専攻名 国際学研究専攻

氏名 鄭安君

外国人労働者の受け入れに関して「後発的」である台湾は、先行国の経験を「教訓」にし、外国人労働者に対してより「厳格な管理」を行ってきた。「厳格な管理」は、「経済利益最大化」および「社会コスト最小化」の実現を目指し、外国人労働者の受け入れ人数を一定規模内に抑制して、「必要性、切迫性および代替不可性」という外国人労働者の受け入れ方針を維持する方法として行われてきた。そして、「厳格な管理」は、外国人労働者に対して職種・職場の変更を制限し、労働管理および入国・滞在管理をすることで、労働者の失踪および「不法就労」をも防止する方策として行われてきた。

しかし、現実では、台湾政府の政策的意向に反して、外国人介護労働者の受け入れ人数が増加し続けてきた。今日の台湾はインドネシア、フィリピン、ベトナム人女性を中心に25万人にも上る外国人介護労働者を受け入れている。その94%がインドネシア人中心の住み込みの家庭介護労働者で、6%はベトナム人中心の施設介護労働者である。また、外国人介護労働者の失踪は断続的に発生し、近年、台湾では年間2万人前後の外国人労働者が失踪している。

本論は、失踪者（失踪経験者）を含む42人の外国人介護労働者、仲介業者、雇用主、その他の関係者などの半構造化インタビューおよび参与観察を中心に、今日の台湾における外国人介護労働者受け入れに関する問題について考察した。先行研究の大半が、外国人介護労働者が直面しやすい労働条件や人権侵害、生活環境の不備問題について、雇用主・仲介業者・労働者の間にある社会的強者と弱者の関係性を軸に様々な問題を分析してきた。それに対して、本論の主眼は、むしろ「強き雇用主・悪き仲介業者・弱き外国人労働者」といういびつな関係を作り出してきた制度の分析に主眼を置いた。

本論の特徴は以下の4点である。1つ目は、雇用主・仲介業者・労働者の3者がともに「制度的弱者」であることを指摘したことである。一見、労働者にとっての不利な制度は、実際、雇用主と仲介業者にとっても良い制度でははく、雇用主側の介護需要や仲介業者のニーズをも抑え込んでしまう側面がある。雇用主と仲介業者の「制度的弱者」という側面が見えにくく、いびつな関係が表面化してきたのは、介護労働市場において長らく台湾が買い手市場にあったことが強く関係する。

2つ目は、労働市場が買い手市場から売り手市場に大きく変わる中で複雑化する労働者・雇用主・仲介業者の3者関係を捉えたことである。労働力市場が売り手市場へシフトしている中、雇用主と仲介業者の弱者的な立場が顕在化し、雇用主・仲介業者・労

働者の3者間の複合的な関係がより複雑化し、3者はともにより弱い立場に追い込まれて「総弱者化」しまう事態が生じている。

3つ目は、本論は労働者にとっての不利な制度がもたらしたマイナス影響について、合法労働者だけではなく、先行研究では詳しく分析されていない、雇用主の元から去り非正規滞外国人となった外国人女性（以下、失踪者）の失踪理由および失踪後の労働・生活実態を詳細に考察したことである。特に、失踪後の労働実態を「短期的な介護に対する需要」と「短期的な介護労働」の視点から描くとともに、失踪者の介護労働に頼らざるを得ない介護需要側の危うさが明らかにした。

4つ目は失踪者が不断に生み出されてきたことの社会的意味を労働者・雇用主・仲介業者のそれぞれの視点から考察したことである。安全・安心な環境で受け入れてもらえず失踪者として働かざるを得ない事態が不断に生み出されてきたことは、台湾の受け入れ政策の問題点を象徴的に示すもので、人権という視点から厳しく問われるものである。そして、失踪者の不断の発生は、雇用主側の介護需要や仲介業者のビジネスをも脅かしている。

法的環境と市場環境が変化している中、外国人女性たちは一部の選択の可能性を得て、労働や生活の不安や不満で職場の変更を申し出るという能動的な行動を出ることが増えている。しかし、職場の移動の最終決定権は依然として雇用主側にあり、女性たちは自身の能動的な行動の結果に対して常に不安を感じている。その不安または結果への不満で、失踪者として働く選択をする女性が増えている。

一方、雇用主は介護労働力確保と管理責任の不安から、外国人女性を厳しく管理することが多いが、失踪者の発生で緊急的な介護労働力を確保するため、別の失踪者をより高い賃金で雇うケースが増加している。また、台湾の仲介業者も労働力と利益の確保のため、失踪者を雇用主に紹介することが少なくない。売り手市場にシフトしている中、労働者の状況が改善されておらず、雇用主および仲介業者はこれまで得ていた利得を得られなくなり、雇用主は介護労働力の確保に不安を感じ、仲介業者は「厳格な管理」と「人権的配慮」の矛盾の中、労働者確保と利益確保で苦しむようになっている。

論文審査結果の要旨

専攻名 国際学研究専攻

氏名 鄭安君

1. 審査概要

(1) 予備論文審査

学位請求のための予備論文「台湾の介護分野における外国人労働者の受け入れをめぐる問題～雇用主・仲介業者・労働者の『総弱者化』～」は2018年9月5日に提出された。この論文に対して、国際学研究科教員の審査委員5名および学外審査委員1名からなる予備論文審査委員会が設置された。国際学研究科教員5名による予備審査委員会は2018年10月22日に開催された。学外審査員からは事前に個別のコメントを得た（2018年10月21日）。

予備審査委員会では、博士論文としての水準を学会誌への掲載や分量により確認した。予備論文提出までに学会誌に掲載された論文は1編あった「台湾における外国人介護労働者の失踪と失踪後の非合法介護労働—ベトナム人失踪者の事例による一考察—」（『アジア・アフリカ研究』第58巻第1号、2018年1月刊）。また、2018年9月1日に刊行された国際学部研究論集に「台湾における外国人介護労働者増加の背景—介護制度・資源との関係を軸にして—」が掲載された。予備論文は、台湾における介護分野での外国人労働者と雇用主・仲介業者が直面している問題状況を詳細に検証した労作として評価された。教育的な観点から加筆・修正に取り組む課題について、以下のコメントが出された

1. 歴史的・グローバルな視点がやや弱い。
2. 外国人介護労働者が台湾でこれほどまでに増加した介護状況や社会的要因を明確にすべき。
3. 「総弱者化」の概念の定義や使い方をより深く議論すべき

以上を総合した結果、学位論文の審査請求に値するという合意が全員一致で得られた。

(2) 学位論文審査

学位請求論文は2018年12月10日に提出された。これを受けて、予備論文審査委員会と同じ構成員6名からなる学位審査委員会が設置され、2019年1月21日に、第1回委員会、口述による最終試験、第2回委員会を実施した。

1) 第1回学位審査委員会

予備論文審査において指摘された改善事項を確認した結果、いずれも改善が認められ、全員一致で最終試験を行うことにした。

2) 最終試験

最初に鄭安君氏に対して本論文がどのように改善されたかを中心に説明を求めた。鄭安君氏からは、改善事項に対する加筆・修正点として以下の説明があった。

1の指摘については、歴史的・グローバル的視点から見える台湾の外国人労働者の受け入れの特徴を追加説明した。2の指摘については、政府の調査結果を丁寧に整理し、台湾家庭の介護労働の緊迫的な状況を追加説明した。3については、検討した結果、「総弱者化」を分析概念として使わずに、代わりに「制度的弱者」を中心的な分析概念として使うことにした。「総弱者化」は、問題提起的な概念として使うことにした。雇用主・仲介業者・労働者が共に制度的弱者であることを提起し、失踪問題をもって、3者がともに制度的弱者である側面および「総弱者化」するケースの発生を詳しく説明した。

そのあとで質疑応答を行った。予備論文で指摘された箇所について、再考や修正に工夫された跡がうかがえ論文構成（序章から終章のまとめ）が体系的に整理されていることが確認された。

3) 第2回学位審査委員会

論文審査および最終試験での鄭安君氏との質疑応答の結果から、博士後期課程の論文評価基準に照らして、学位論文〔博士（国際学）〕の要件を満たしているとの結論に達した。

評価される点。

- ・問題意識が鮮明、課題設定が明確である。
- ・アプローチが難しい失踪者問題に果敢に取り組んだ意欲作である。
- ・精力的な調査結果について時間をかけて丁寧に取り組んだ労作である。
- ・本論に関係する重要な人物や組織に対する調査が精力的に幅広く行われており、本論文のオリジナリティーを担保している。

今後の課題・期待

- ・民族的な出自を同じくする中国系外国人労働者の研究も進めていく必要がある。
- ・介護分野における外国人労働者問題のグローバルな現状や課題を踏まえ、台湾を事例として研究することの意味をより明確にして、その成果を広く発信する。
- ・理論的な分析力を鍛え、理論構築に貢献できる研究に発展させる。

2. 審査結果